

小川は光る

平成24年4月27日 No.1
村上市立小川小学校

監督に叱られて

校長 森田 和之

映画フーテンの寅さん「男はつらいよ」で有名な山田洋次監督はご存じの方も多いと思う。代表作には「幸せの黄色いハンカチ」「学校」、最近では「武士の一分」「おとうと」などがある。中でも「幸せの黄色いハンカチ」は、1977年（昭和52年）10月に公開され、その年の、第1回日本アカデミー賞などの映画賞を総なめにした、日本映画の名作と言われている。出演は、高倉 健、桃井かおり、金八先生の武田鉄矢である。

この映画の配役に山田監督が武田鉄矢氏を起用したことから、武田氏のその後の芸能人生が変わった。山田監督がこの映画に彼を起用したきっかけは、たまたま耳にした海援隊のヒット曲「母に捧げるバラード」を歌っている武田氏に興味をいだき、その人となりを見て、映画の配役に抜擢したという。そして、彼はこの作品で好演し、高い評価を得たのである。しかし、俳優としては素人の彼が、初めから演技が上手かった訳ではなく、並々ならぬ努力があったことは推察できる。

以前、テレビ番組で、武田氏が「幸せの黄色いハンカチ」の撮影時のエピソードを話していた。そこには、こんな秘話があったという。

彼が必死に演技してもNGの連続で、山田監督に何度も何度も厳しく叱られ、途中で辞めたいと本気で考えていた時、高倉健さんが後ろから「叱られる人は伸びるんだよな」と一言つぶやいたそうである。また、山田監督は「役者が必死に演技して、涙を流すから観客の心を掴むんだ」と厳しく教え、彼の奮起を促したそうである。健さんや監督から後押しされて、彼は、ぐんぐん役者としての力を付けていった。

この映画は、北海道を舞台にしたロードムービーで、撮影のほとんどがロケで行われた。最後の撮影は、健さんと彼の別れのシーンで、台本では武田氏が涙を流す場面なのだが、どうしても涙が出ない。頑張っても感情移入しても出ない。撮影が止まったままの状態のその時、口数の少ない高倉健さんが彼に「世話になったな」と声をかけた。途端、涙があふれ出て、彼は号泣した。カメラはその瞬間を捉え撮影は終了したそうである。

さて、映画「幸せの黄色いハンカチ」で武田鉄矢氏が俳優としての道を歩むわけだが、この作品が、彼のその後の俳優人生の礎となる。彼の叱られながら演技力を身に付けていった努力も立派なのだが、彼を起用した山田監督の人選力、指導力が光るのである。

俳優武田鉄矢を育てた監督なのである。

学校教育でも、子どもは教師に教えられ、鍛えられ、時には叱られて、いろいろな事を学び、人間として成長していく。我々教員が、子どもを叱る（指導する）時は、子どもを何とか伸ばしたいという一心でのことである。子どもたちに目をかけている証しなのである。

そう言えば、今年の教え子との同級会でも、話題の中心は私に叱られたことだった。

今年度も新しい職員を迎え、小川小の教育がスタートした。子どもたちに力をつけるために、20名のスタッフで、一人一人の子どもを大切にしたい教育活動を展開する。一生懸命「教え・鍛え・時には叱り」ながら、子どもたちの成長のために頑張りたい。保護者の皆様、地域の皆様のお力をお貸し願いたい。

50余年咲き続けている小川の桜が満開である。

22名の1年生が桜のグラウンドで元気にリレーをしていた。